



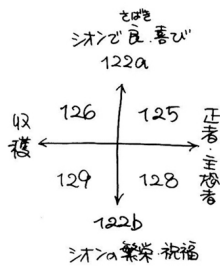
都上りの詩篇 詩篇128篇

詩128

2012.12.18

1 / 2a	幸者. 主を恐る者 / 実	アガム 勤勞の実, 成功) 家
2b / 3	幸者. 良者 / 実. 妻. 子	エバ. 子に産む.	
4 / 5a	祝福. 主を恐る者 / 祝福. シオンから	主を恐る 主シオンから) 神の家
5b / 6	見よ. 主を恐る者 / 見よ. 子. 孫ら.	エバ. 子. 孫ら	

Gen15: アブラハム. 恐る. 報いは大きい
 Ex1: 主を恐る助産婦は. 栄える
 Job: 主を恐るヨブ. 倍の祝福.
 Prv: 主を恐ることは知恵の初め.



125. エバが良者とされるが. - 主に信頼(勇みと誇り). 良い直ぐに与む.
 128. エバが祝福されるが. - 主を恐る.
 + 実を結ぶ. 繁栄. いのち.
 シヤロ-ウがあるように.
 = 知恵 → いのち

詩篇128篇。「幸いなことよ、主を恐れる者は」という出だしで始まっている幸いな詩篇ですね。

127篇も幸いな詩篇ですけど、「幸いな者よ」が、2回入っていますね。1節と2節のBのところ、「幸福で幸せであろう」と書いてあるところ。「幸福、幸いでトブである、あなたは」という言い方があります。1から3までを1つに見ています。1から3までで、幸いな者よ、勤勞の実を食べる。幸いな者よ、妻と子供たちが祝福されて実を結んでいるということ。4節から6節のところも2つに分けます。

「主を恐れる人は」という言い方の出だしが1節と同じです。このように祝福を受けます。5節でまた「祝福をシオンから与えられます」「そして見よ、そして見よ」というのが、5のBと6の最初にあります。1と2A、2Bと3、4と5A、5Bと6という8つに分けたものを組み合わせて考えてください。

「幸いな者よ、実を結ぶ」「幸いな者よ、実を結ぶ」「祝福される、祝福される」「エルサレムと子供、子供と孫らよ」という形ですが、主を恐れる者は祝福されるというのは、アブラハムの創世記15章で、「主を恐れるならば報いは大きい」と言われます。出エジプト記の1章で助産婦たちは主を恐れたので栄えるようにされました。主を恐れたヨブは、倍の祝福を得られました。「主を恐れることは知恵の初めである」ということです。

1節2Aの4つに分けた最初のところは、アダムの事を思い出すと。勤労の実が与えられている。働くことによって成功している。働くことが成功してるというアダム。

2Bと3は、エバの祝福。子を産む事。子供たちがたくさん与えられているということで、アダムとエバ、その本物のアダムとエバの家族ということです。幸いな家族は、幸いな者の家は祝福を受けますということ。4から6の方は、祝福されるのですが、もっとスケールが大きくなって、神の家の祝福に変わっています。主を恐れる者と、シオンから神様が祝福してエルサレムを良しとされるということが、それぞれの家庭、主にある主を恐れる家庭が祝福することを通して、与えられるものだという関係もあると思います。

1から3は、主を恐れる者の家の祝福。4から6は、その主を恐れる者たちの集まりである神様の民の神様の家の祝福。その前半、後半に分かれると思われます。

125篇と128篇は、並行しているものですね。125篇の方は、誰が良い者とされるのか。128篇は、誰が祝福を受けるのかというのが、この2つの並行しているところですが、125篇の方は、知恵のある者、128編の方は、いのちのある者という2つの組み合わせになっていると思われます。